



コレクション
2016

RIMOWA®

Germany since 1898



軽さほど 重い課題はない



糊を混ぜる傘職人の西堀耕太郎

日本古来の材料である竹と革新的なハイテク素材、ポリカーボネイトに共通しているものが何なのか、ただだけではわからない。これを確かめるためには、目よりも手触りを信じるべきだ。手で触ればこれらふたつの素材を結び付けるものが何か、すぐに理解ができる。堅牢でありながら決して扱いにくくなく、軽量でいてしなやか。すなわち、高い保護力を持ちながら、私たちの動作に制限を与えないという申し分のない特性だ。このような特性を生かし、ポリカーボネイトを初めて採用したスーツケース、SALSAが生まれた。優れた耐久性を最小限の重量で実現したSALSAは、RIMOWAで最も人気があるスーツケースコレクションのひとつだ。同様に日吉屋の和傘も、このような特性を生かした製品だ。傘の柔軟性が失われないようにしつつ、傘の強さを担っているのは、細く加工をされた50本を超える竹棒だ。柔軟性は、京都和傘で知られる日吉屋の五代目当主、西堀耕太郎の信条でもある。彼はこうも言う。「イノベーションが進むと、それは新たな伝統になります」。西堀にとって、伝統とはすでに定着しているものではなく、維持するために変化するか、変化をさせなければならない何かを意味する。



どの工程にも、この上なく繊細な技能が求められる。

彼の仕事もまたこの絶え間ない変化の一部だ。京都の日吉屋は、日本では数少ない手作りの和傘を扱う会社のひとつだ。西堀は低迷していた事業を義理の父から譲り受け、深い眠りから甦らせた。彼は伝統的な素材と革新的な素材を組み合わせ、新しい技術を試し、和傘のアイデアを発展させた。しかし彼は常にある原則に忠実だ。その原則とは、強さと軽量化を両立させることである。このふたつの要素は、傘においても、SALSAのようなスーツケースにおいても、両立させなければならない。西堀は自分の手を頼りにこれを実現している。

ポリカーボネイトを最も美しいフォームに:SALSA

